

特集「ユビキタスコンピューティングシステム (X)」の編集にあたって

村尾 和哉^{1,a)}

1988年にDr. Mark Weiserによって、情報機器を意識せずに、いつでもどこでも利用できるというユビキタスコンピューティングの概念が提唱されました。それ以降、情報処理技術の発展にともない、多くの機器にコンピュータが組み込まれ、スマートフォンやクラウドコンピュータとも連携して得られるビッグデータが機械学習により分析可能になり、さまざまなサービスにより人々の生活の支援を行うことができるようになってきています。現在はIoT (Internet of Things) という概念もよく聞かれるようになりましたが、ユビキタスコンピューティングはIoTも包括し、いかに人が意識せず有益なサービスを実現するか、を取り扱う研究分野となっており、センサデバイス、信号処理、ミドルウェア、ネットワークング、データマイニング、ヒューマンインタフェースやAIなどの工学分野から、社会学や心理学などにも踏み込んで、学際的に研究活動が行われています。

本特集号はこのような研究の推進を目的として、ユビキタスコンピューティングシステム (UBI) 研究会が企画しているもので、今回で第10回目となりました。UBI研究会の主査、幹事、運営委員を中心に構成した編集委員会での慎重な審議の結果、投稿数14件に対して、8件の論文が採択されました (採択率57%)。非常に優れた論文を採択できたものと考えます。

採択された論文のテーマは、次に利用するスマートフォンアプリの予測や、ヘルメット内圧力データを用いた個人識別、感染症流行時の身体活動量分析、大規模ユーザの滞在情報を用いたエリアの特徴付けとCOVID-19による影響分析、アクティブ音響センシングを用いた環境温度変化にロバストな物体情報識別といった、ユビキタスコンピューティングの実現に向けて取り組まれている広範な研究から、質の高い研究論文を採択することができました。今後も、本特集号を継続していく予定ですので、投稿をぜひご検討いただければと思います。

最後に、本特集号の機会を与えてくださった論文誌編集委員会の皆様、多忙にもかかわらず丁寧に査読していただいた査読者の方々、編集にご協力戴いた特集号幹事・編集委員の皆様へ感謝申し上げます。特に、特集号編集委員の

皆様には、著者と査読者の間に入り、論文の採択に向けて多大なご助力をいただきました。その結果、高品質な論文を数多く採択することができました。心より御礼を申し上げます。また、何にも増して、ご投稿いただいた著者の皆様に深く感謝いたします。今回は残念ながら採択に至らなかったご研究についても、そのような積み重ねがあつてこそ、本文野が発展していくものです。本特集号が本分野のさらなる発展に向けた一助となれば幸いです。

「ユビキタスコンピューティングシステム (X)」特集号編集委員会

- 編集委員長
村尾和哉 (立命館大学)
- 幹事
米澤拓郎 (名古屋大学), 前川卓也 (大阪大学), 榎堀優 (名古屋大学)
- 編集委員
岸野泰恵 (日本電信電話), 清田陽司 (LIFULL), 中澤仁 (慶應義塾大学), 渡邊拓貴 (北海道大学), 井上創造 (九州工業大学), 新井イスマイル (奈良先端科学技術大学院大学), 池 司 (東芝), 石黒祥生 (名古屋大学), 磯山直也 (奈良先端科学技術大学院大学), 伊藤禎宣 (情報通信研究機構), 大内一成 (東芝), 大北 剛 (九州工業大学), 大越 匡 (慶應義塾大学), 大西鮎美 (神戸大学), 大村 廉 (豊橋技術科学大学), 尾原和也 (NTT 研究所), 孔 全 (日立製作所), 坂村美奈 (カディンチェ), 佐野涉二 (金沢工業大学), 島田敬士 (九州大学), 是津耕司 (情報通信研究機構), 相馬 功 (九州大学), 高木 雅 (日本電信電話), 寺田 努 (神戸大学), 土井裕介 (Preferred Networks), 中村嘉隆 (公立はこだて未来大学), 中山 悠 (東京農工大学), 西山勇毅 (東京大学), 野間春生 (立命館大学), 樋口啓太 (Preferred Networks・醸燻酒類研究所), 廣井 慧 (京都大学), 藤波香織 (東京農工大学), 松井加奈絵 (東京電機大学), 松木 萌 (ソフトバンク), 水本旭洋 (大阪大学), 柳沢 豊 (m plus plus), 里田浩三 (NEC)

¹ 立命館大学情報理工学部情報理工学科
Ritsumeikan University, Kusatsu-shi, Shiga 525-8577, Japan
^{a)} murao@cs.ritsumeikan.ac.jp